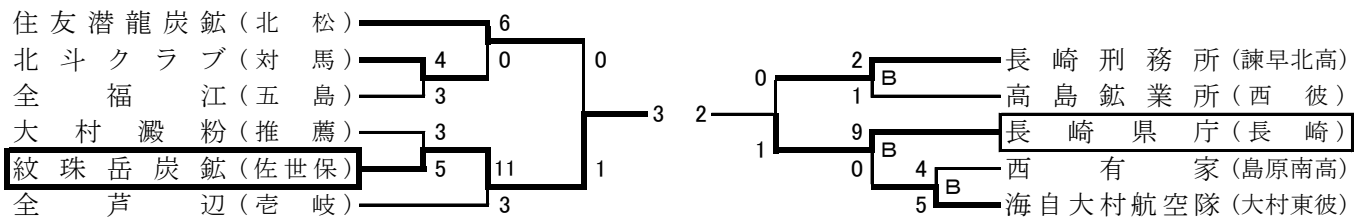


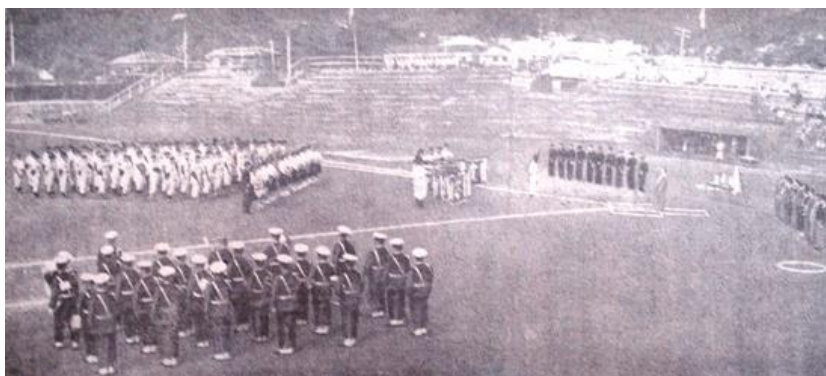
チーム編成1年目の紋珠岳炭鋳の手に大優勝旗と銀杯が…

第7回県下郡市対抗準硬式野球大会	会期： 昭和32年10月19日(土)～20日(日)
	会場： A・長崎市宮大橋球場 B・三菱球場



長崎日日新聞社と長崎県軟式野球連盟の主催による、第7回県下郡市対抗準硬式野球大会は10月19日、大橋球場で県警本部プラスバンドを先導に吹奏する行進曲に乗って審判団が棒持する国旗、大会旗、連盟旗に続いて選手団入場により開幕された。先頭は今大会から設けられた推薦枠出場で前年度優勝の大村澱粉。続いて、10地区代表チームは、長崎刑務所、高島鋳業所、西有家、長崎県庁、海上自衛隊大村航空隊、住友潜龍炭鋳、北斗クラブ、全福江、紋珠岳炭鋳、全芦辺の順で各地区優勝旗をなびかせて堂々入場。国旗、大会旗、連盟旗の掲揚に続いて、前年度優勝の大村澱粉から優勝旗、桑原会長杯、読売新聞社杯などの返還があり、大会あいさつ、祝辞などが述べられた。これに対して大村澱粉の田中淳・

主将が選手宣誓を行なって、開会式を閉じた。
(昭和32年10月20日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)



【全福江】 打安点

⑤ 磯田 剛	5	1	0
⑦ 鍵原 清治	5	0	0
④ 松本 肇	4	1	1
③② 山下 壱弘	3	1	0
②③ 夏井 稔安	5	1	0
⑥ 佐々木慎太郎	4	1	1
⑨ 川口 初善	3	0	0
H 才津 玉穂	1	0	0
9 片山 宅美	1	0	0
① 平井 義洋	5	1	0
1 白石 昇	0	0	0
⑧ 植松 和臣	4	0	0

(監)野原 善照 40 6 2
(マ)酒井 徳貞

【一回戦】大橋：第1試合 振球犠盗失

全福江	000 003 000 00	3	6	3	1	0	3
北斗クラブ	010 001 001 01x	4	7	5	2	0	5

(延長11回)

【二】松本、網代、梅野敏

【評】北斗は際どいところで延長戦に持ち込み、11回裏に梅野敏の殊勲打でやっと全福江を降ろした。この回先頭の立花が四球、平井に代わった白石から古藤が内野安打した一二塁に梅野が左越え二塁打してサヨナラ勝ちした。全福江の先発・平井は制球に難があったが北斗打線の粗雑なバッティングに助けられ寿命を保っていた。じっくり打てばもっと早くKOできたはず。一方の宮原投手も球が高めに浮き、六回に3安打集中されて3点を失ったが、内外野の守備がお粗末で投手の負担を重くしていた。

【北斗クラブ】 打安点

⑥ 立花 能大	5	0	0
⑨ 古藤 博也	6	3	0
③ 網代 猛	5	3	0
② 梅野 敏雄	6	2	2
① 宮原 正善	4	0	0
⑧ 島居 邦明	4	0	0
⑦ 浜崎 千秋	3	0	0
⑤ 宮原 昭人	5	2	0
④ 園田 深耕	0	0	0
4 梅野 忠	4	0	1

(監)佐伯 伯 42 10 3
(控)森口大蔵、浪花康弘
梅野幾久人、梅野義行
御手洗政憲

チーム紹介【全福江】

うさ形揃いの五島予選を勝ち抜いてきただけに投打に割合まとまった力は持っているが、やはり県大会で上位進出を狙うには今一つ力不足といった感じがする。上位打線は当たっているが下位打線に当たりがなく打線に切れ目が難点。

☆五島代表の過去の戦績☆

- 第1回 五島支庁 0-3 長崎刑務所
- 第2回 五高OB 1-6 日鉄御橋炭鋳
- 第3回 五島南風 2-7 島原ニュースター
- 第4回 全福江 2-6 相浦食販
- 第5回 全福江 7-6 林兼造船所
0-10 住友潜龍炭鋳
- 第6回 放送協会 8-3 全芦辺
0-19 長崎機械工具

チーム紹介【北斗クラブ】

昨年の大会の西肥バス戦で大黒柱の宮原正が好投して苦しめたが貧打で敗戦した。しかし今年は打てないチームの汚名を返上するように練習を積んだが、準硬式に慣れていないので上位進出には苦戦するだろう。

☆対馬代表の過去の戦績☆

- 第1回 全 巖 原 4-3 共済病院
0-1 長崎刑務所
- 第2回 北斗クラブ (棄権)
- 第3回 = 棄 権 =
- 第4回 ◇ 不参加 ◇
- 第5回 ◇ 不参加 ◇
- 第6回 北斗クラブ 0-1 西肥バス

【紋珠岳炭鋳】 打安点

⑥ 柴山三千年	6	4	2
④ 福田 勝吉	7	2	1
⑧ 藤本 博	6	2	0
⑤ 大石 典	6	1	1
②③ 佐々木哲郎	6	1	0
⑦ 森田 幸吉	4	1	0
⑨ 大賀 英雄	3	0	0
③ 藤田 裕	2	0	0
2 栄 幸春	4	1	0
① 末藤 繁	5	1	1

(監)安川猪佐美 48 13 5
(控)長谷川恵昭
佐久間禎端、藤川一彦
坂本猛、川口昭

13回、鶴島ガックリ 前年の覇者、澱粉降す

【一回戦】大橋：第2試合 振球犠盗失

紋珠岳炭鋳	102	000	000	000	2	5	6	4	4	0	1
大村澱粉	001	001	100	000	0	3	6	2	2	0	1

(延長13回)

【三】柴山【二】柴山、末藤、龍田
【評】好守好打の応酬で延長13回に及んだこの試合も、13回に紋珠岳炭鋳が2四球と敵失により無死満塁の絶好機に押し出し四球と柴山のスクイズで2点を挙げて振り切った。
大村・鶴島の投球が高めに流れる立ち上がりを捕らえた紋珠岳は初回到二塁打の柴山を大石の三塁強襲安打で還し、三回には末藤、柴山の連続長打などで2点を加え優位に立った。
しかし大村は3点の負担にも屈せずジリジリと挽回し、七回に同点に追いつき延長戦にもつれ込んだが13回に鶴島が遂に力尽きた。
前年度優勝の大村澱粉も上位打者がさっぱり振るわず、同点にしたところが精一杯だった。

【大村澱粉】 打安点

⑨ 草野 徳美	5	0	1
⑦ 田中 淳	5	1	0
② 荒木 省自	5	0	0
⑤ 大島 沙	5	0	0
① 鶴島 忠義	5	2	0
④ 龍田登志夫	4	1	1
⑧ 永尾武一郎	4	0	0
③ 芦塚 肇	3	1	0
H 池田 良雄	0	0	0
⑥ 馬場 格	4	3	0

(監)大塚禎雄 40 8 2
(控)小川守、北川守
中野良三、草野君



7回裏長崎澱粉、龍田の左翼線二塁打で鶴島が一塁から生還して同点とする

チーム紹介【紋珠岳炭鋳】

チーム結成は今年の3月。安川監督(元八幡製鉄)の指導でメキメキ腕を上げ地区予選では西肥バスなどの強豪を一蹴して代表となった。投手陣は長谷川と坂本が主軸だが、最近に日鉄北松の末藤(三池高)、藤川(鹿島高)、内山(佐世保南高)の3投手を入れて豊富だ。

チーム紹介【大村澱粉】

昨年優勝の原動力となった野中が日鉄御橋に移ったが、元西鉄の鶴島が入社したので投手力の低下は全然なく、昨年と変わらない戦力。鶴島は外角低目の直球とカーブをうまく使い分けるピッチングで大量失点がない。たとえ少々の失点でもこのチームははね返すだけの打力があるのも強味。



スタンドから熱心に声援を送るファン

惜しい二回の好機

遠来の対馬、北松に敗る

【二回戦】大橋：第3試合 振球犠盗失

住友潜龍炭鋳	300	001	002	6	4	3	3	2	1
北斗クラブ	000	000	000	0	2	1	0	0	6

【住友潜龍炭鋳】 打安点

⑨ 三浦 勝	3	0	0
9 阿部 弘正	0	0	1
⑥ 菅 素信	4	2	1
⑤ 延高 康男	5	1	0
⑦ 平田 智	3	1	1
④ 大浦 康正	4	1	2
③ 深堀 広次	4	1	0
① 土橋 重夫	4	1	0
② 福富 正則	3	1	0
⑧ 西村 清一	4	1	0

【評】北斗クラブは一回戦の対五島に完投した宮原をベンチに温存し、網代を先発させて住友潜龍打線のある程度かわし宮原にリレーする作戦だったが、網代が初回到先頭の三浦を歩かしたのがつまづきとなり、菅、平田に打たれて3点を失い、五回にも大浦のタイムリーで1点追加されたところでプレートに宮原に譲った。
この4点の負担は打力のない北斗クラブにとって大きな重圧で二回に2安打を連ねた唯一のチャンスも、牽制球と暴走で刺されて実を結ばず、シャット・アウトを喫した

【北 斗】 打安点

⑨④ 古 藤	4	0	0
⑥ 立 花	4	0	0
①③ 網 代	4	0	0
② 梅 野 敏	4	2	0
⑧ 島 居	3	1	0
③⑦ 浜 崎	2	1	0
⑤ 宮 原 昭	3	0	0
⑦ 浪 花	1	0	0
1 宮 原 正	2	0	0
④ 園 田	1	0	0
4 梅 野 忠	1	1	0
H 梅 野 義	1	0	0
9 御 手 洗	0	0	0

30 5 0

(監)吉松又一 34 9 5
(部長)山田泰久
(控)佐藤俊則

チーム紹介【住友潜龍炭鋳】

第3回と第4回大会で連続優勝しており試合巧者だ。そんなに目立った選手はいないのだが、半面ソツがない。選手の平均年齢は25歳と高い。これが老巧味のあるチームとなって表れているのだろうか。

【全芦辺】 打安点

⑤	大川 忠正	5	1	0
④	西 敏之	4	1	1
⑦	武末平八郎	4	1	1
⑥	豊田八真登	4	0	0
⑧8	柳沢 寛二	4	0	1
⑧3	吉田 正昭	3	0	0
H	大久保 尚	1	1	0
②	中尾 信雄	3	2	0
H	藤本 正男	1	1	0
③9	柴山 昭三	3	0	0
①	豊田敏八郎	4	1	0
(監)	柳沢文男	36	8	3

【二回戦】大橋：第4試合 振球犠盗失

全 芦 辺	100 000 002	3	3	4	1	0	4
紋珠岳炭鉱	006 410 00X	11	2	5	0	4	2

【二】佐々木、栄
大川

【評】前年度優勝の大村澱粉を破って氣勢の上がっている紋珠岳炭鉱の前に全芦辺は敵ではなかった。初回に芦辺が1点先制したので面白かったが、頼みの豊田が不調で、好球巧打と待ち構える紋珠岳打線の餌食となり、三回に福田以下につるべ打ちされ大量6点を失い、四回にも4点を加えて前半で勝負を決めた。

全芦辺は最終回に紋珠岳3人目の投手・坂元に4安打と押し出して2点を返したが焼け石に水。実力差をまざまざと見せ付けられた試合だった。

チーム紹介【全芦辺】

町内の同好者で組織したクラブチームで3年連続出場。離島のため試合経験に乏しく、こういった大きい試合になるとちょっとしたまづきでガタガタとなるのがマイナスだ。

【紋珠岳】 打安点

⑥	柴 山	5	1	0
④	福 田	4	2	0
③	佐々木	3	2	1
⑤	大 石	5	1	2
⑦	森 田	3	2	2
1	長谷川	0	0	0
1	坂 元	1	0	0
②	栄	3	1	3
⑨	佐久間	4	2	2
9	大 賀	1	0	0
⑧7	川 口	5	1	0
H	藤 本	1	1	0
8	渡 辺	2	0	0

30 13 10

【西有家】 打安点

④	吉田 公一	3	0	0
⑥	近藤 朝恵	2	1	0
5	前田 敏夫	2	0	0
③2	徳永 周助	4	2	1
⑨	林田 忠臣	4	3	1
⑧17	志岐 慶英	4	2	0
②3	増田 勝幸	4	1	0
①871	吉田平三郎	2	2	0
⑦	江口 昌利	2	0	0
8	志岐 正一	1	0	0
8	本村 守	0	0	0
H	志岐 一平	1	0	0
⑤6	佐藤 一智	3	1	0
(監)	永田幸彌	32	12	2
(控)	永田輝雄			

【一回戦】三菱：第1試合 振球

西 有 家	300 010 000	4	9	3
海自大村航空隊	000 220 10X	5	4	4

【三】徳永、増田
【二】田中

【評】初出場同士の対戦。西有家は初回に海自大村の山下を激しく攻め、先頭の四球を足場に徳永、林田、志岐が3連打して3点を先取。四回にも大村内野陣の混乱に乗じて加点して試合を有利に進めた。

一方の海自大村航空隊はチームの若さと試合経験不足から、さして好調と思えない吉田平の変化球を打ちあぐんでいたが、四回に山下と岩切の内野安打とボークで2点を返したあたりから好守ところを代えた格好ですっかり元気づき、五回は西有家内野陣の混乱に乗じて無安打で2点を挙げ同点。七回には伊藤と山内の安打で勝ち越し点を奪って勝ち星を握った。

【海自大村】 打安点

⑥	垣村 寛二	4	0	0
⑦	中尾 英利	4	0	0
②	六角 茂美	4	1	0
③	伊藤 信重	4	1	0
①	山下 和義	3	1	0
⑧	山田 忠	2	0	0
9	山内	1	1	1
④	岩切 昭博	4	2	0
⑨8	田中 尚彦	4	1	0
⑤	山口 敏明	3	0	0
(監)	生田豊	33	7	1

チーム紹介【西有家】

チーム結成8年目でようやく県下第一線に出てきた。先の県民体育祭で北松の住友潜龍に2-1惜敗で互角に闘ったファイトと粘り強さは侮れない。

チーム紹介【海上自衛隊大村航空隊】

チーム編成して三ヶ月。彗星の如く現れて代表権をかつさらった新鋭。予選の出場が公式戦初試合というから幸先のスタート。平均年齢は21歳の若さあふれるチームだ。

【高島鉱業所】 打安点

⑧	毛利 和彦	3	0	1
⑦	野口 勝也	3	0	0
③	渡部 博之	4	0	0
④	藤本 晴光	4	1	0
⑥	長崎 末雄	4	1	0
⑨	秋山清二郎	2	0	0
H9	小川 賢三	1	0	0
⑤	松岡	4	0	0
①	尾崎 英	4	0	0
②	河野 光男	2	0	0
(監)	江頭宏	31	2	1

【二回戦】三菱：第2試合 振球

高 島 鉱 業 所	000 010 000	1	9	3
長 崎 刑 務 所	110 000 00X	2	4	4

【二】与田

【評】白川はコントロールされた速球で外角低目を突き、尾崎も制球力のよいカーブと速球で対抗。熱のこもった投手戦で1時間25分のスピーディな試合を見せた。

長崎刑務所は初回に内野失から好機をつかみ、白川の好打で原口が還り、二回は与田の右中間適時二塁打で加点して試合を有利に運んだ。

高島鉱業所は前半は主軸打者の不振がひどく、ことに4打席4三振を喫した藤本の不調がブレーキとなった。しかし五回に白川の疲れを巧みにつき一死満塁の好機に毛利の右犠飛で1点を返したが後続無く、計2安打では精一杯の反撃だった。

【長崎刑務所】 打安点

⑥	原口	4	0	0
④	川原 勉	4	0	0
①	白川 義昭	3	1	1
⑧	松本 博	3	0	0
②	森永 裕輔	4	1	0
⑤	松尾 修	3	0	0
③	平野 末春	3	1	0
⑨	高橋 秋好	2	0	0
⑦	与田	3	1	1
(監)	日下潔	30	4	2

チーム紹介【高島鉱業所】

第5回大会は端島炭鉱に譲ったが今回で六度目の西彼代表。今年こそは優勝を狙って、伊王島や端島の炭鉱から好選手を補強して大会に臨んできた。

チーム紹介【長崎刑務所】

5年ぶり3回目の諫早北高地区代表となった。2年前は県代表として天皇杯に、また西九州代表で国体にも出場したが今大会でもその経験を生かして上位食い込みを狙っている。

宮原、投打に殊勲 大村航空隊をほんろう

【二回戦】三菱：第3試合

振球

長崎県庁	002 103 300	9	4	2
海自大村航空隊	000 000 000	0	5	0

【三】佐々野、宮原

【二】中村、中尾

【長崎県庁】 打安点

⑦ 本田 武男	4 1 1
⑤ 庄司 惣八	5 0 0
③ 中村 豊	4 1 1
8 本田 瑞穂	1 0 0
④ 入江 勝則	5 0 0
①9 宮原 直善	4 2 1
H 今村 視明	1 0 0
⑧18 佐々野泰臣	3 1 1
② 岩永 豊明	3 1 1
2 川原 武則	1 0 0
⑨ 為成 隆	3 0 0
1 一ノ瀬末福	1 0 0
⑥ 佐藤 昌幸	3 2 0

【評】一回戦で西有家を破った新鋭の海自大村航空隊だったが、試合経験の乏しさと実力の差はいかんともしがたく大差で長崎県庁の軍門に下った。

海自大村の山下投手は一回戦にもまさる好調で初回は8球で三者凡退に打ち取る素晴らしさだったが、連投の疲れからか、後半はスピードを欠いて県庁の打棒を誘発した。

県庁は三回一死後一三塁の好機に捕手のボーンヘッドで先取点を挙げると、六回は二死から佐々野、岩永の長短打と内野失で3点、七回にも佐藤、本田武の連打に宮原の右中間三塁打で3点をあげてダメ押しした。

県庁エースの宮原は絶妙のコントロールで海自大村の各打者を翻弄、4安打を散発させて六回からマウンドを一ノ瀬に譲る余裕を見せ、打っては三塁打を含む2安打の活躍を見せた。

(監)渡辺源 38 8 5
(控)御厨勝、松村邦敏

チーム紹介【長崎県庁】

地区予選で前年度準優勝の長崎機械工具を破ってから好調の波にのり群がる強敵をなぎ倒して初の地区代表になった。これは宮原の好投によるところが大きく、予選4試合で自责点2で本大会に進出してきた。

【大村】 打安点

⑥4 垣 村	4 0 0
⑦ 中 尾	4 1 0
② 六 角	3 2 0
③ 伊 藤	4 0 0
①6 山 下	3 1 0
④8 岩 切	3 0 0
⑨ 山 内	3 0 0
⑧1 田 中	2 0 0
H 山 田	1 0 0
⑤ 山 口	3 1 0

30 5 0



大会二日目は時折り秋陽のさす絶好の野球日和に恵まれて準決勝、決勝の3試合が行われた。第1試合は両軍投手の好投で容易に得点を与えず、大会三度目の延長戦に持ち込まれ長崎県庁が14回表に三塁打の本田武を中村のスライズで還して長崎刑務所に辛勝。第2試合は佐世保・紋珠岳炭鉱が六回

に挙げた1点を末藤の好投で守り切って北松・住友潜龍に快勝した。決勝戦は長崎県庁が3回に今村の2ランも空しく、七回に失策が絡んで佐世保・紋珠岳炭鉱が3点を奪い逆転。そのまま逃げ切って、初出場で初優勝を遂げた。

(昭和32年10月21日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)

長崎刑務所に決定打が出ず

【準決勝】

振球 犠 盗 失

長崎県庁	000 000 000 000 01	1	12	0	1	1	3
長崎刑務所	000 000 000 000 00	0	7	1	0	2	2

【三】本田武

【二】川原

【県庁】 打安点

⑦4 本田武	6 2 0
⑥ 松 尾	4 0 0
H 庄 司	1 0 0
7 今 村	1 0 0
③ 中 村	5 1 1
⑤ 入 江	6 1 0
① 宮 原	5 0 0
⑧ 佐々野	5 0 0
② 岩 永	5 1 0
⑨ 為 政	3 0 0
④6 佐 藤	5 0 0

46 5 1

【評】県庁の宮原投手はシュートと鋭いカーブをうまく配合する頭腦的ピッチングで、刑務所の白川投手は低めにコントロールされた速球と切れのよいドロップで互いに譲らず0-0で延長戦となった。10回一死満塁の好機をスライズ失敗で逸した県庁だったが、14回に本田武の左中間三塁打で再びチャンスを迎え、中村の巧妙なスライズで決勝点をあげた。

県庁は初回二死一二塁、十回は敵失足場に一死満塁の得点機を迎えた他は、ほとんど好機がなく白川の前に鳴りを潜めていた。

これに対し、長崎刑務所は三回から八回までは毎回安打走者を出し、六回は先頭・川原の二塁打を、八回には二死二三塁の得点機を迎えるなど押し気味に試合を進めながら、後続を宮原に抑えられて得点に至らなかった。試合内容は刑務所が押していたが決定打の不足から好投の白川を見殺しにした。

【刑務所】 打安点

⑥ 原 口	6 1 0
④ 川 原	6 1 0
① 白 川	5 1 0
⑧ 松 本	6 1 0
② 森 永	6 0 0
⑤ 松 尾	6 0 0
③ 平 野	5 0 0
⑨ 高 橋	5 1 0
⑦ 与 田	5 1 0

50 6 0

【潜龍】 打安点

⑨ 三 浦	4 0 0
⑥ 菅	4 0 0
⑤ 延 近	4 1 0
⑦ 平 田	4 1 0
① 大 浦	3 0 0
③ 深 堀	2 1 0
④ 土 橋	3 1 0
② 福 富	3 0 0
⑧ 西 村	3 0 0

30 4 0

【紋珠岳】 打安点

⑥ 柴 山	4 1 1
④ 福 田	3 0 0
⑧ 藤 本	3 0 0
③ 佐々木	3 0 0
⑤ 大 石	3 1 0
⑦ 森 田	3 1 0
② 栄	2 0 0
⑨ 佐久間	2 1 0
① 末 藤	3 0 0

26 4 1

紋珠岳、6回の1点守る

【準決勝】

振球 犠 盗 失

住友潜龍炭鉱	000 000 000	0	2	1	0	0	1
紋珠岳炭鉱	000 001 00X	1	3	0	2	1	1

【評】六回の紋珠岳炭鉱は敵失と犠打の二死二塁で柴山が中前テキサス打して栄が還りこれが決勝点となった。

住友潜龍は末藤の大きく割れるドロップに手が出ずシャットアウトに甘んじたが、惜しまれるのは八回に先頭の土橋が安打で出塁、続く福富がバント失敗の捕邪飛に倒れ、後続が凡退した逸機で無得点に終わった。紋珠岳炭鉱の強打陣を4安打に抑えた大浦投手にとっては気の毒な敗戦だった。

佐世保・紋珠岳炭鉱が初出場・初優勝 7回、見事に逆転

県庁、今村の2ランも空し

【県庁】打安点

④9	本田武	4	1	0
⑥	佐藤	3	1	0
③	中村	3	0	0
⑤4	入江	4	1	0
①	宮原	4	1	0
⑧	本田瑞	1	0	0
8	佐々野	3	0	0
②	岩永	3	0	0
⑨	為政	2	1	0
5	庄司	1	1	0
⑦	今村	3	1	2
		31	7	1

【紋珠岳】打安点

⑥	柴山	4	0	0
④	福田	3	1	0
⑧	藤本	3	2	0
③	佐々木	3	0	0
⑤	大石	2	0	0
⑦	森田	3	0	0
②	栄	3	0	0
⑨	佐久間	3	1	1
①	末藤	3	0	0
		27	4	1

【優勝戦】

	振	球	犠	盗	失
長崎県庁	002	000	000	2	8 1 1 0 1
紋珠岳炭鉱	000	000	30X	3	5 2 0 1 0

【本】今村

【評】優勝戦は初出場同士の対戦となった。初出場とはいえ、両チームとも長崎と佐世保の強豪ひしめく地区の代表だけに実力伯仲。先取得点に燃える両軍は初回から果敢に打って出たが、県庁は三回一死後に始めての安打が為政の投手内野安打。続く今村は1-0の真中高目の半速球を左翼席に2点本塁打して有利に試合を進めた。

県庁の宮原投手は四回に得点圏に走者を置いたが六回までは相手打線にスキを与えず、この日の出来からしてそのまま押し切るかと思われたが、七回に悪夢が待っていた。

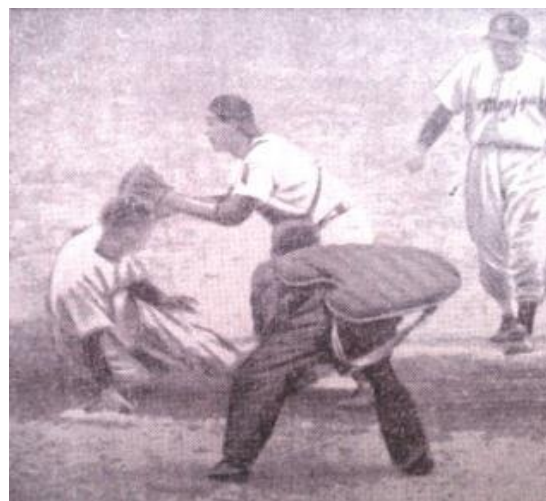
七回の紋珠岳炭鉱は先頭の藤本が左前打、佐々木のバントは宮原が巧く処理して二封。大石四球の一三塁に森田の中飛で三進、大石が二盗を決めた二三塁に、栄の当りは遊ゴロだったが、きれいにトンネルしてアツという間に二者生還して同点となった。気落ちの宮原に佐久間が外角球を右翼線に流し打って、栄を還して試合を引っくり返した。

反撃の県庁は八回、先頭の庄司が安打するも併殺網にかかり、最終の九回にも二死から入江、宮原が連打し投手のボークで二三塁と一打逆転の好機を迎えたが三振に倒れた。

県庁遊撃手の佐藤は、優勝戦という雰囲気と、二三塁の走者を意識して固くなっていたためだろうが、結局はこれが命取りとなり、好投の宮原には気の毒な一瞬だった。



長崎県庁2回今村が左翼席に本塁打して生還



紋珠岳炭鉱7回遊ゴロ失でボールが左前に転がる間に二走の大石が生還し同点となる



閉会式は県警プラスバンドの行進曲吹奏で優勝の紋珠岳炭鉱、準優勝の長崎県庁の両ナインが入場して整列。優勝チームの大賀英雄主将に賞状、優勝旗、桑原杯、読売新聞社杯が贈られ、準優勝チームの中村主将にも、賞状と準優勝杯が授与された。

個人賞は、優勝戦で勝利の逆転打を放った佐久間禎端に最高殊勲選手賞、3試合を完投し優勝の原動力となった末藤繁に最優秀投手賞が、4割1分6厘の藤本繁(紋珠岳)が首位打者賞、美技賞には再三広範囲な守備範囲でピンチを救った柴山三千年遊撃手(紋珠岳)、敢闘賞は惜しくも決勝で敗れたが二日間力投した県庁の宮原直善に、それぞれ贈られた。

閉会式終了後、県警プラスバンドの行進曲で両チームのナインがダイヤモンドを一巡、スタンドの観衆の賞賛の拍手の嵐の中に大会の幕を閉じた。

昭和32年の全国大会における長崎県代表チームの戦績

天皇賜杯第12回全日本軟式野球大会 【51チーム】

(S32.9.22～:岐阜県)

日鉄北松御橋 【二】 1-0 相互車輛(京都)
【三】 3-4 帝人名古屋(愛知)

第8回西日本準硬式 【26チーム】 5.19～:京都府

日鉄北松 【一】 9-4 不二越(富山)
【二】 0-3 積水化学(奈良)

第12回静岡国体(27チーム)には不出場

第1回高松宮賜杯全日本大会 8.16～:群馬県

1、2部とも10チームの参加であったが、本県から出場なし